

日本地球電気磁気学会会報(第2号)

1964年6月10日

日本地球電気磁気学会

事務局 東京都文京区弥生町 3
東京大学理学部地球物理学教室内
電話 (812) 2111 内線 6476
板番 東京 4860番

第35回総会及び講演会経過報告

先づ皆様Kプログラムをお配り致しました通りの日程Kて、第35回講演会および総会は盛会裡K終了致しました。講演申込数がおよぶありましたが(講演番号24, 29, 30, 84は講演取消)、講演者各位が要領よく時間を節約とされて御講演下さいましたので、講演会は予定通り進行致しました。講演者各位の御協力K対しこゝ厚く御礼申し上げます。今回は予想以上K出席者の数が多く、講演予稿集が売り切れになりましたので、後からお求めになりたい方々への御希望をみたすことができなくなりましたことをお詫び申し上げます。

以下、第35回総会及び講演会を振り返りまして、簡単に御報告致します。

地球電磁気学将来計画シンポジウム 5月29日午後行われましたこのシンポジウムは、大勢の会員が御出席Kおり盛会でした。シンポジウムは平尾会員(将来計画検討小委員会委員長)が座長になり、次のような順序で、下記の通り研究分野毎K討論のきっかけを提供する話を簡潔に行いました。

挨拶	(前田委員長)	電 離 層	(新野賢福会員)
地球内部電磁現象	(行武毅会員)	超 高 層 分 光	(等松隆夫会員)
磁気測量・測器	(柳原一夫会員)	地 磁 気 変 化	(橋島直会員)
岩石磁気・古地磁気	(小島稔会員)	宇 宙 空 間	(大林辰雄会員)
空電・空中電気	(岩井壺・北川信一郎両会員)	宇 宙 線	(北村正盛会員)
電 波 伝 播	(岩井登会員)		

どの分野でも、研究を推進するため必要な費用、組織、人材、研究者待遇など、現状に対する不満は大きいのでありますが、人材養成が急務であるこ

とも痛感されました。

いろいろと議論が出ましたので、予定してありました時間では足りませんでしたが、シンポジウム席上で出ました議論をもとに、近く将来問題検討小委員会が取りまとめを行う予定となっております。なお、このシンポジウム開催前、多数の会員からアンケートに対する熱心な返答をいただきましたことを関係者一頁感謝しております。本学会としましては、はじめての将来計画シンポジウムでしたが、予期以上の成果があがりましたと思っております。

次に、総会における主な事項を要約して記します。

庶務報告 J.G.G誌を海外に宣伝することに努め、その結果J.G.G発行部数が伸び、財政面でも好影響を及ぼしています。会員数は総会当日現在、国内会員247名、外国会員41名、合計288名であります。この中には、下記の新入会員も含まれております。

新入会員紹介(前号掲載以降の入会者)

氏名(敬称略)	所 属	氏名(敬称略)	所 属
石 嶺 剛	愛波研究所	島 田 昌 彦	京都大学理学部地球
廣 松 光 雄	金沢大学教養部	前 中 一 晃	会 上
角 田 忠 一	緯度観測所	前 田 嘉 一	在U.S.A(NASA)
河 島 信 樹	原子力研究所	S.J. Bauer	U.S.A(NASA)
内 海 健	北大理学部地球物理	A.R. Goldberg	U.S.A(NASA)
清 水 喜 允	地磁気観測所	R.E. Gendrin	France(CNET)

なお、5月29日以降に、本会加入申込が6名ありましたが、規定により次回運営委員会での承認を済ませましてから、会報に掲載とさせていただきます。

会計報告及び昭和39年度予算審議 本会報第4頁に掲載されております通りです。本学会では正会員会費が年額僅か800円でありますだけに、会計は決して楽ではありませんので、会員各位が賛助会員をなるべく多く勧誘して下さるようお願い致します。

会誌発行状況 会誌 *Journal of Geomagnetism and Geoelectricity* は、UMP特集号としての Vol. XV, No. 4 が間もなく発行され、引きつづき、Vol. XVI, No. 1は印刷中、No. 2は編集集中で、現在 No. 3の原稿を兼ねて

います。いままで会誌発行が遅れがちになっておりましたのをなるべく早く今年度中にでも取戻すために関係者は努力しておりますと報告がありました。会員各位から多数の論文が投稿されますことを望んでおります。

なお、「論文執筆要綱」と題するパンフレットもつくり、本会報に添えて皆様にお配りしております。このパンフレットには、論文の書き方、綴り方、スタイルに関する注意はもとより、校正の要領、講演の仕方、予稿の書き方に関する注意まで記されており、大変便利で有益な冊子ですから、常に座右に備えられて御利用下さい。

委員長挨拶 前田委員長は、日本の学問を向上させるために、研究者が持つべき心掛けを話されました。論文は業績の養み上げであり、業績をあげるためには、計画を立てる必要があります。会前に関われた将来計画シンポジウムもそのために役立ちます。各自の専門分野で、他の分野との連絡を常に心がけ、研究者自らが積極的クルートを開拓してゆく努力が欲しいと話され、学会講演会開催、学会誌発行を学会の二本の柱として推進してゆきたいと述べられました。

名誉委員長祝辞 長谷川名誉委員長は学会の雰囲気を買讃され、長期計画の実現に努力して欲しいと挨拶されました。

謝辞 は、関戸会員が参会者を代表して述べられました。

次回講演会及び総会 は、加藤愛雄会員がノの月下旬に東北大学において開催することを御引受けする挨拶があり、出席者一同の拍手をもって歓迎されました。

懇親会 は、5月29日夕刻、本邦「江知勝」において約60名の参加を得て盛大に行なわれました。

学会事務所からのお知らせ

本会報に添えて、昭和38年度会費納入会員には、J.G.G. Vol. XV, No. 4 (UMP 特集号) を配布しております。この特集号を余計にお求めになりたい方、あるいは昭和38年度には会員になっておられない方々でこの特集号をお求めになりたい方はノ冊500円にてお送り致します。

印刷費がかなりかかりましたので、学会財政を少しでも御援助していただく意味でこのようにさせていただきますことを御諒承下さい。

昭和38年度決算報告

取 入 の 部	支 出 の 部
前年度繰越金 円	第33回総会費 円
497,624	76,080
正会員会費	第34回総会費
296,364	70,435
準会員会費	会誌JGGXIV-3
528,347	98,425
賛助会員会費	XIV-4
10,000	133,094
文部省助成金	XV-1
110,000	54,280
預金利子	XV-2
6,586	226,610
予稿集売上	XV-3
56,100	191,660
別刷代金	雑印刷費
110,753	38,840
別刷交換会費	通信費振替印紙代
7,000	81,210
	消耗品費
	23,800
	地球物理連合費
	1,000
	次年度繰越金
	627,340
計	計
1,622,774円	1,622,774円

昭和39年度 予算案

取 入 の 部	支 出 の 部
前年度繰越金 円	第35回総会費 円
627,340	80,000
正会員会費	第36回総会費
240,000	90,000
準会員会費	会誌JGGXV-4
320,000	240,000
賛助会員会費	XVI-1
100,000	210,000
文部省助成金	XVI-2
150,000	210,000
預金利子	XVI-3
10,000	210,000
予稿集売上	XVI-4
50,000	210,000
別刷代金	雑印刷費
210,000	42,000
別刷交換会費	通信, 消耗品費
20,000	100,000
	学会連合費
	2,000
	人件費
	60,000
	繰越金
	273,340
計	計
1,727,340円	1,727,340円